令和　4　年度　　（別紙４－１）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)SHメディカル		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	岡山県岡山市南区松浜町7-34		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370104998-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　One　More　Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481－7
訪問調査日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重度化が進み、看取りの対応をすることも多くなっている中で、グループ内の医療連携が大きな支えとなっている。主治医と訪問看護師、施設の看護師とがしっかり情報を共有し、いざという時も迅速に対応をしてくれる。そういったバックアップがあるので、利用者様とそのご家族様と十分な話し合いを行って、意向に添ったサービスの提供を行うことができている。個別ケアという点では、STやPTといった専門職との連携で、利用者様の状態に応じた日々のリハビリメニューや食事形態についての指導・助言を受けている。これによって職員間でのケアの統一化を図り、利用者様が安全で安楽に生活を送っていただけるよう支援をしている。また、コロナ禍でLINEを利用したご家族様との連絡手段を取り入れることで、利用者様の日々の様子などをこまめに報告することが出来るようになった。面会をしていただけない状況の中で、写真や動画を送ることができるのは、ご家族様に喜んでいただいている。

2003年4月に開所した「グループホームかえで」は今年で丸20年を迎える。長い歴史の中では数多くの人生の終焉に立ち会ってきた。このホームの入居者の特徴は様々な理由で退去した人の家族や親戚、知人が利用者として再び「かえで」とご縁を結び、人間関係の輪が継続している事である。例えば、相前後して又は同時期に夫婦で入居のケースでは、夫の最期を妻が看取ったり、入れ替わりに親族が入居したケース、足かけ15年にわたり両親がお世話になっている家族もいる。コロナ前までは、退去後も気軽にホームに立ち寄って話をしたりイベントに参加してくれる家族が多かったのも、日頃から家族との信頼関係が出来ていた証だろう。そして「かえで」の良さは人から人へと評判が伝わり馴染みの人達との関係継続につながっている。これからは徐々にまた元のような交流の輪が広がると思うので、地域の福祉の拠点として邁進して下さい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は目に入る場所に掲示し、職員全員がそれを意識し共有できるようにしている。また、理念に添えるような個人目標を設定し半期ごとに振り返りをおこなっている	「一人ひとりの入居者様の能力を活かした温かいケアを提供します」という基本理念を掲示する他、令和4年度の部署目標も掲げている。また、毎月目標管理評価シートを作成して職員各自が評価しやすい目標をあげる事で意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長や、副会長、老人会や隣の町内会の方々と交流がある。ホームのことを常に気にしてくださっている	しっかりと地域に根付いた活動を長年行ってきた実績は、コロナ禍にあっても途切れる事なく、地域の方々の温かい支援と交流がある。町内の秋祭りには「かえで」にもだんじりがやってきて、皆喜んで見学した様子が写真や記録からも確認出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々へ向けて支援を活かすことは出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、集まっての会議は実施できていない 書面での報告にとどまっている	コロナ前は他のホームと異なる「かえで」独自の運営推進会議を行ってきたが、残念ながらコロナ禍になってからは開催出来ていない。しかし、これまで通り2ヶ月毎に議事録（活動報告等）を書面にて送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に対して密に連絡を取ることはできていない	市の担当者とは運営推進会議への参加を通してホームの実情を理解してもらい、情報交換や意見交換をしていたが、コロナ禍になってからは必要に応じて電話や窓口等で相談をし、連携を取るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠していても、非常口より出て行ってしまったアクシデントが発生 そして、今は徘徊者などの対応があり、玄関を開錠することはなかなか難しい その他の身体拘束に関しては勉強会を実施し、身体拘束をしないケアを実践している	無断外出を防ぐ為に、止む無く各ユニットのドアの施錠をしている。外に出たい人には職員が付き添い散歩に出かけて気分転換をしてもらったり、言葉かけの工夫等をしている。スピーチロックに関する研修会では職員が利用者役となり実際に「立たないで」等と制止される体験をした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会メンバーを中心に勉強会を実施、どのようなことが虐待であるか理解し、防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を設けており、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には時間をかけて説明をおこない、理解していただけるように努めている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ｻｰﾋﾞｽ向上委員のメンバーを中心に利用者や家族へ向けてアンケートを実施し、それらを公表、実践できるようにしている	毎月「かえでの風」新聞を発行して行事や日々の生活の様子等を写真満載で家族にお知らせしたり、可能な家族とはLINEを利用して写真や動画を送って近況報告をしている。家族からの意見や提案は運営に反映させるように努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期ごとに個人面談をおこない、意見や提案を聞くようにしている、また毎月の会議で全員より提案を聞き、反映させている	話し合い議事録には、業務に関して困っている事や気になっている事、提案したい事、みんなに伝えたい事等の記録があり職員間でよく話し合っている事が分かる。勤務年数の長い職員も多いが、最近では外国籍の職員の採用もあり、スキルアップに向けた研修もしっかりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足により、有給の取得も困難な状況が続いた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修を受ける機会を確保することが出来なかった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流は全く行えなかったグループ内での会議で情報交換を行うのみにとどまった		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前より十分に情報収集をおこない、不安を取り除けるよう支援している、またｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを大切にし、要望に添えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より、ご家族が不安を抱えていることが多いように思う、どんなことに不安があるか、困っているのかを聞き、安心して信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がどんな意向を持っているか確認し、必要としている支援を見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者と同じ立場に立って、共に生活する関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の関係を大切にし、情報交換を密におこなっている 細めに状態報告をおこない、共に本人を支えられるよう努めている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、生活史ｼｰﾄや今まで馴染みのあったものを書いてもらっており、それらを参考にして、大切にしてきたことが途切れないよう支援している	両親が足かけ15年間お世話になっている人や現在夫婦で入居している人達もいて、このホームはこれまでにも馴染みの関係性が面々と受け継がれている。家族との信頼関係がしっかり出来ているので、その縁で利用者がつながっていると聞く。玄関でのパーテーション越しの直接面会も喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状が個々に違うため、難しいこともあるが孤立しないよう職員が配慮し関わり合えるように支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、関係性を大切にしてフォローや支援をおこなっている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートの実施、日々の関わりの中から把握に努めている 困難な場合でも、本人の立場に立って考えることが出来る	生活史ノート、暮らしの情報、介護ケア記録等を見ても利用者の人生の背景や日々の思いや希望がよく分かる。また、本人アンケートを実施する他、デイリーモニタリングシートで本人の発した言葉を拾って記録しており、これまでにも何気ない本人のつぶやきをプランにつなげた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活史ｼｰﾄや暮らしの情報を記入してもらうことで把握している また家族や担当CMと情報交換をおこない経過を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が、利用者の状態をしっかりと見極め現状の把握をすることが出来るよう、特に毎月のｶﾝﾌｧﾚﾝｽを大事にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が意見を出すことは難しく、ご家族やその他関係者と話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている	ケアプランや個別機能訓練計画書からも、アセスメントを綿密に行い、モニタリングを重ね、主治医や看護師とも連携しながら職員間で話し合いチームでケアプランを作成しているのがよく分かる。また、個別ケアにも力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく記入するようにし、職員間で確実に情報共有が出来るようにしている 状態に変化があった時には介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに応じて、関係者と連携し柔軟な支援ができるよう努めている 主治医や訪問看護師とも密に連携をとっている また同じグループ内で相談することも出来る		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どんな地域資源があるか把握し、コロナ禍が落ち着けば心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援したいと思っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望する場合は、それまで利用していたかかりつけ医を受診することができるように支援し、必要に応じて情報の共有が出来るようにしている	協力医による定期的な訪問診療や訪問看護の他に、専門職との連携では言語聴覚士や理学療法士によるリハビリの適切なアドバイスを頂ける。職員に看護師が2名いるので連携を取りながらチームで健康管理をしているので安心である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護職員や、訪問看護師に日常的に利用者の状態を相談・報告し、必要な指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、早期に退院できるように、病院関係者と情報交換を行ってスムーズな退院の調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	状態に変化が生じたら早期にご家族と、今後について話し合いが出来るように支援しており、場合によっては主治医と相談して頂けるように支援している 施設で出来ることを十分に説明して理解を得ている	昨日も一人見送ったばかりであり、息子さんがずっと傍についていてくれて穏やかな最期だったと聞いた。昨今看取りをした人は殆どの方が老衰であり、最期の時まで「今までよくしてくれてありがとう」と何度もお礼を言ってくれた利用者もいる。残された時間を家族と一緒に過ごす事を大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間を通して緊急時の対応のデモストを行っている 定期的に対応を見直している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して利用者も一緒に火災訓練や災害訓練を行っているが、コロナ禍で、地域の方に参加していただくことが出来ていない	消防避難訓練を年2回行い、火災を想定した訓練では火災通報装置の確認や火災報知機の復旧の仕方等を学んだり、利用者も一緒に避難経路を確認しながら実施した。3月には消防署員立ち会いの下で実施し消火器の扱い方の指導があった。	近い内に発生すると言われている南海トラフ地震に備えて、ハザードマップを参考にしながら様々な災害を想定した訓練を行い、備蓄品も定期的に点検する等、今まで以上に職員間で対策を講じて欲しい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のレベルに差があり、自立に近い方がそうでない方へかける言葉に職員のフォローが必要な場面がある 共用生活の場で、一人一人のプライバシーを損ねない声掛けに努めている	職員の対応や言葉遣いはもちろんの事、対利用者間の関係性にも注意を払いながら、人としてのプライドや尊厳を損なわないように気を付けている。トイレが各居室にあるので、排泄時の羞恥心やプライバシーは守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、思いの表出や自己決定をしていただけるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のやりたいことがある方は、その思いを尊重し、時にはこちらからその日の過ごし方を提案するなどして、その人らしい暮らしの支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、必要なものを整え、本人が自発的に身だしなみに関心が持てるように働きかけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化が進み、常食を食べることができる人数が減っている。個々の状態に合わせた食事形態にしているが、現在は一緒に準備などは出来ていない。	以前は利用者が台所に立ち職員と調理する姿をよく見かけたが、今は重度化が進みお手伝い出来る人が少なくなったと聞く。利用者と職員が同じテーブルでお喋りしながら楽しく食事をしていた光景がコロナ禍になってからはなくなった。出来る人には食器洗い等を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の食事摂取能力と量を、状態の変化があるたびに検討し、その時に最適な食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援し、ケアの方法や義歯の管理について、歯科衛生士からの助言をもとに支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録アプリの表に入力することで職員全員がパターンを把握している。また、毎月のｶﾝﾌｧﾚﾝｽで個別の自立支援に向けたケアの検討をおこなっている。	排泄が自立で布パンツで過ごしている人もいるが、重度の人が増えたので大半はその人の状態に合わせて紙パンツ、パット併用、テープ止めおむつ等を使用し、個々の排泄リズムを把握して声かけをしながらトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	おやつにヨーグルトを提供したり、しっかりと水分を摂っていただけるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一番風呂がお好きな方に、可能な限りの一番風呂で対応したり、その日の入浴が気がすすまない場合は、入浴日を調整したりしている	家族の協力を得ながら対応していた入浴拒否の激しかった人も今では慣れてきて以前程ではないとの事。いろいろ検討を重ねてきた職員の知恵と工夫で上手く支援出来ている。浴槽に浸かって入浴とシャワー浴対応は半々くらいだが、会話をしながら楽しく入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて、日中でも横になって休んでいただく時間をとるなどの支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が処方した薬を把握し、症状の変化の確認をして、状態に応じて主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗い物や洗濯物畳、繕い物などで役割を持ってもらったり、自室で趣味に集中できるような支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で人が多く集まる場所には出かけられないが、散歩やドライブなど気分転換が出来るような外出を支援している	コロナ前には恒例であった一日旅行もこの数年は行けてないが、少しでも非日常を楽しんでもらおうと希望者と木下大サーカスを見に行く事が出来た。花見やドライブを楽しんだり、天気の良い日は外で日光浴や近くの公園まで散歩に行って気分転換をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望に沿って、たとえお金を使うことが出来なくても、安心感を得るためにお金を持っていることを支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方には、ご家族とやり取りが出来るように支援している ご家族から届いた手紙を、本人に届けて、必要なら代読をする		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年度共用部の壁紙を張り替えた際、利用者にとって落ち着けるような色合いを心掛けた 壁面には季節の飾りを飾って、季節感を感じていただけるように工夫している	開所して丸20年を迎え、全館のクロス張替えを実施したので、リビングもより明るく清潔感があり、1階と2階では壁紙の色が違うので趣きが異なる。広いリビングにはゆったり寛げるソファーや畳コーナーもあるので、趣味活動をしたり仲良くお喋りする等、思い思いに好きな場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分には各所にゆっくり座って過ごすことができるように、ソファーや椅子を設置している それぞれが思い思いの場所で過ごすことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の馴染みの家具や道具を持ち込んでいただき、やりたいことが出来るような環境づくりをしている	職員に声をかけられたAさんが気持ちよく自室に案内してくれ、ご主人の位牌を置いて毎日拝んでいる話や家から持ってきた趣味のちぎり絵の作品を説明してくれた。各居室前には写真と自筆の名前プレートが掛けられ、どの部屋も家族の写真に囲まれた居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活していただけるように、家具の配置を状況に応じて変更したり、自由に手に取れるような本棚も置いている		